

(7) 球 根 類

○ ユリ

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。
 なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
ウイルス病 (CMV、LMOV、 ASGV、LSV、 TMV、TBV)	①繁殖には健全株の母球を用いる。 ②発病株は早めに抜き取り、適切に処分する。 ③発病株を切った刃物などは、消毒（火炎など）してから使用する。 ④目合い 1mm 以下の防虫ネットにより、アブラムシ類の侵入を防止する。 【参考事項】 保毒球根による伝染や汁液伝染のほか、CMV、LMOV、LSV、TBV はアブラムシ類の媒介により伝染する。
葉枯病 (<i>Botrytis</i>)	①日中は十分な換気を行ったり、暖房機を利用するなどして多湿を避ける。 ②密植を避けたり、老葉を除去するなどして通風を確保する。 ③発病葉や発病花は直ちに除去して、適切に処分する。 【参考事項】 菌の生育適温は 20℃前後で、分生子の形成は 16℃前後が好適である。梅雨期と秋雨期に発病しやすい。

○ グラジオラス

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。
 なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
首腐病 (細菌)	①連作はできる限り避け、排水の良いほ場を利用する。 ②種球は無病のものを選ぶ。 ③発病株は、速やかに除去して適切に処分する。 【参考事項】 はじめは、地際付近の葉鞘に黒褐色の斑点があらわれる。 球根にはへこんだ黒褐色、円形の病斑があらわれる。
グラジオラ スアザミウ マ	①発生地から採取した球根の植付けはできる限り避ける。 ②前作の茎葉や残さを除去し、適切に処分する。 【参考事項】 本種は、球根にも寄生する。

○ 球根類全般

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。
 なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
球根腐敗病 (<i>Fusarium</i>) 緑かび病・青 かび病 (<i>Penicillium</i>)	①植付け時、種球を厳選して被害球を使用しない。 ②連作を避け、無病地で栽培する。 ③排水を良好にする。 ④窒素過多を避ける。 ⑤発病株は速やかに除去して適切に処分する。 ⑥掘取りは晴天が続いた日に傷つけないように行い、掘りとった種球は陰干しして通気性の良い場所に貯蔵する。
ネダニ	①連作を避け、寄生の少ない作物（ウリ、ダイズ、ショウガ、ヤマイモなど）と輪作する。 ②球根貯蔵場所の通風を良くし、高温を避ける。 ③ロビンネダニは 45℃、10 分以上処理すると死滅するが、球根の温湯処理を実施する際は、高温による障害に注意する。 【参考事項】 年に十数回の世代を繰り返す。元来は地中で生息するが、収穫終了後掘りあげられた球根に付着して貯蔵中も加害、繁殖を続ける。